

ファイザープログラム  
～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援  
2016 年度

## 選考結果のご報告

2016 年 12 月

ファイザー株式会社



Working together for a healthier world™  
より健康な世界の実現のために

## — 目 次 —

1. プログラム紹介	1
2. 2016 年度新規助成 応募状況	2
3. 2016 年度助成対象プロジェクト一覧	4
4. 新規助成の選考経過と助成の特徴	6
5. 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	8
6. 継続助成の選考経過と助成の特徴	12
7. 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	14

## プログラム紹介

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援は、ヘルスケアの視点を重視したより良い社会への寄与を目的として、心とからだのヘルスケアの分野で活躍が期待される市民活動・市民研究を応援する助成プログラムです。

第16回となる本年度は、新規助成として、全国から105件のご応募を頂き、そのうち7件（助成総額1,260万円）が、また、継続助成として8件（助成総額1,500万円）が、それぞれの選考委員会による厳正なる選考の結果、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

### ■ プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること。
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること。

### ■ プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業（医薬品の開発と提供）だけでは十分に満たすことのできないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること。
- (2) 政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源の十分に整っていない分野の市民活動・市民研究を重点的に支援していること。
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの獨創性・試行性に評価の重点を置いていること。
- (4) 単年だけではなく、最長3年間の継続した支援も行なっていること。
- (5) プロジェクトに携わる人の人件費や、事務所家賃・光熱費などの事務局経費も助成すること。
- (6) 中間時点でのインタビュー実施によるフォローアップも行なっていること。
- (7) 市民活動・市民研究の社会的認知の向上を目的とした広報活動も行なっていること。

### ■ 助成対象

「中堅世代」の人々（主に30・40・50歳代）の心とからだのヘルスケアに関する課題に取り組む市民活動および市民研究。

### ■ 選考委員会

#### 《新規助成》

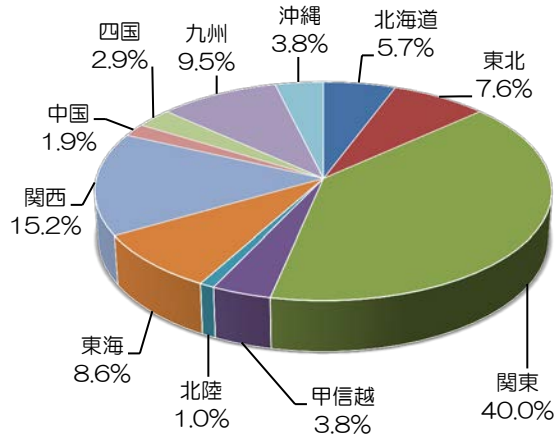
委員長	稲沢 公一	東洋大学 ライフデザイン学部 教授
委員	井ノ上美津恵	認定特定非営利活動法人浜松 NPO ネットワークセンター 代表理事
委員	川島 ゆり子	花園大学 社会福祉学部 教授
委員	滝脇 憲	特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 常務理事／ 特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構 理事
委員	前野 一雄	独立行政法人地域医療機能推進機構 理事
委員	豊沢 泰人	ファイザー株式会社 執行役員 経営政策管理本部長

#### 《継続助成》

委員長	稲沢 公一	東洋大学 ライフデザイン学部 教授
委員	井ノ上美津恵	認定特定非営利活動法人浜松 NPO ネットワークセンター 代表理事
委員	川島 ゆり子	花園大学 社会福祉学部 教授
委員	滝脇 憲	特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 常務理事／ 特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構 理事
委員	前野 一雄	独立行政法人地域医療機能推進機構 理事
委員	豊沢 泰人	ファイザー株式会社 執行役員 経営政策管理本部長

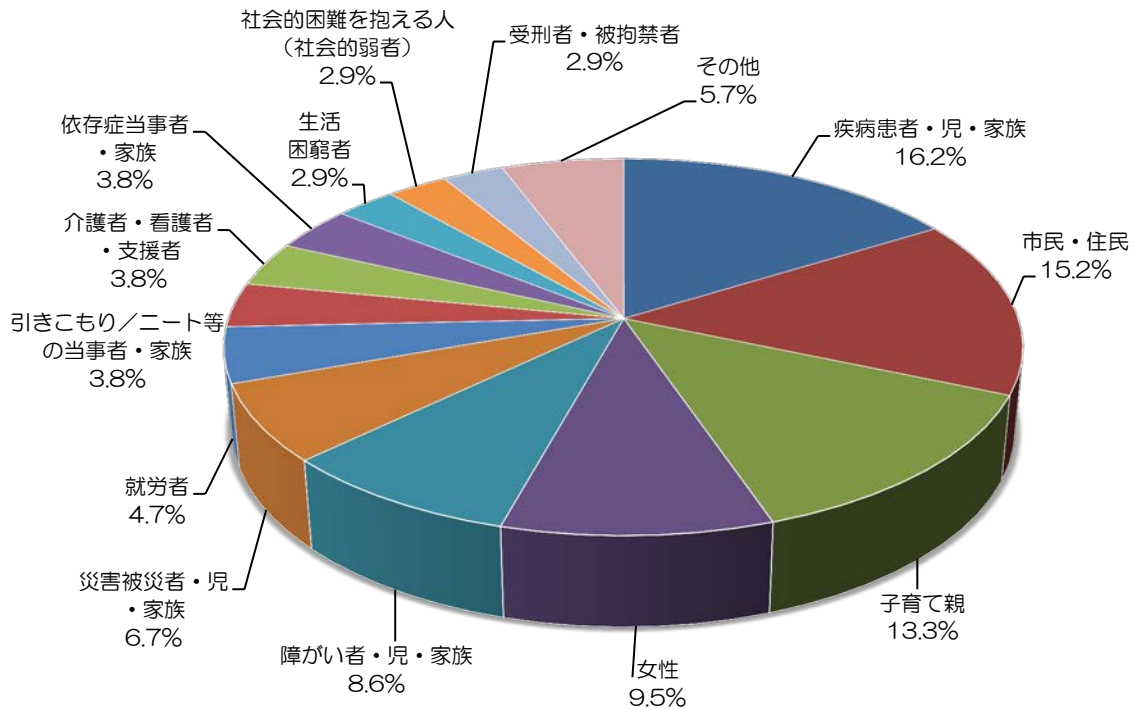
## 2016 年度新規助成 応募状況

### 1. 団体所在地



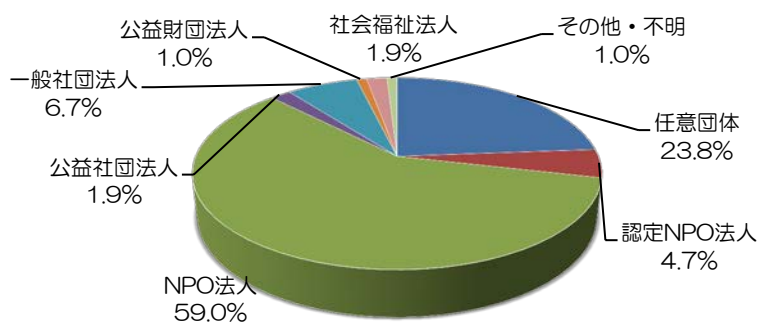
都道府県	団体数	都道府県	団体数
北海道	6	滋賀	0
東北	8	京都	6
青森	0	大阪	6
岩手	2	兵庫	1
宮城	2	奈良	3
秋田	2	和歌山	0
山形	0	鳥取	0
福島	2	島根	1
関東	42	岡山	0
茨城	1	広島	1
栃木	0	山口	0
群馬	1	徳島	0
埼玉	3	香川	0
千葉	4	愛媛	2
東京	27	高知	1
神奈川	6	福岡	1
甲信越	4	佐賀	0
山梨	1	長崎	2
長野	1	熊本	1
新潟	2	大分	0
北陸	1	宮崎	4
富山	1	鹿児島	2
石川	0	鹿児島	2
福井	0	沖縄	4
東海	9	三重	1
静岡	3	合計	105
愛知	4		105
岐阜	1		
三重	1		

### 2. 支援対象の分類

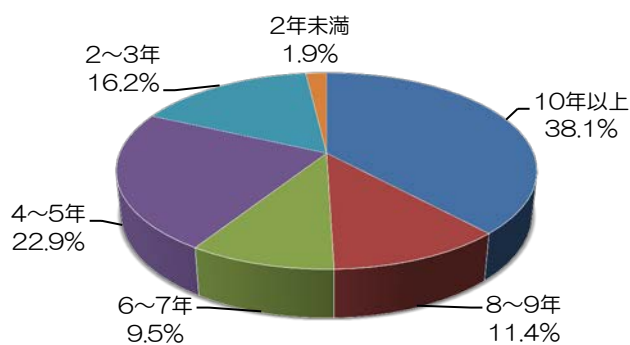


### 3. 組織形態

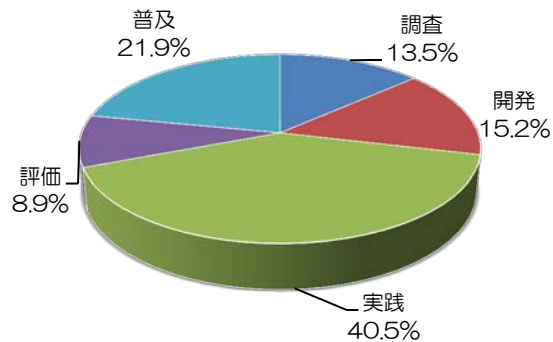
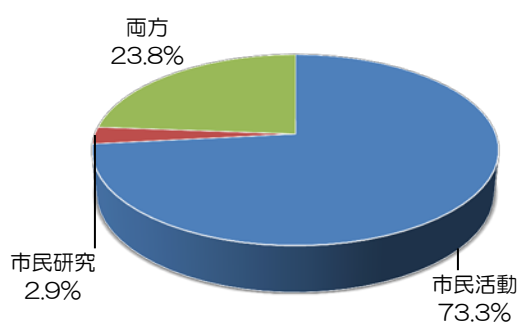
#### ○法人種別



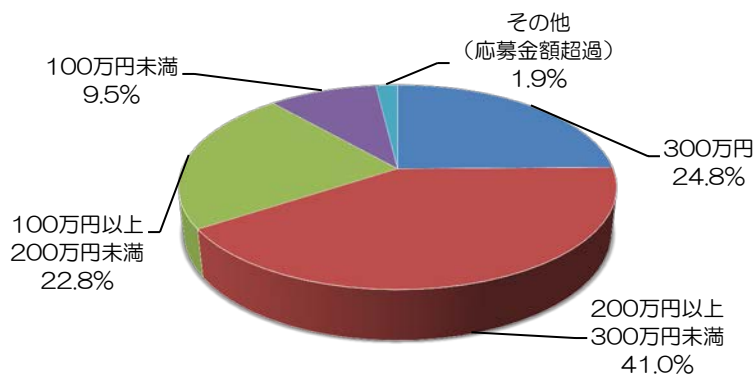
#### ○活動年数



### 4. 応募種別



### 5. 応募金額



**2016 年度助成対象プロジェクト一覧**  
**ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援**  
**－新規助成（助成1年目）－**

	活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
1	○		発達障がい者などの人達の 笑いの効用事業	特定非営利活動法人 楽しいモグラクラブ	平田真弓	北海道	150
2	○		障害者をつくる「山元の魅力」を 発信するプロジェクト	特定非営利活動法人 ポラリス	田口ひろみ	宮城	190
3	○		生活困窮者を中心とした 健康改善及び自律支援事業	特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ	今井誠二	宮城	190
4	○		埼玉県西部地区における 未就学時期の難病児子育て 応援プロジェクト	社会福祉法人 はなみずき会	都築公子	埼玉	170
5	○	○	中堅世代の刑事被拘禁者向け 医療相談事業	特定非営利活動法人 監獄人権センター	海渡雄一	東京	160
6	○		地域の女性とシングルマザーに よる「活躍」と「自立」の場づく り事業	桑名女性ネットワーク	水谷美保	三重	100
7	○		沖縄夢コーヒープロジェクト	特定非営利活動法人 ウヤギー沖縄	近藤正隆	沖縄	300
<b>助成総額〔7件・合計〕</b>				<b>1,260万円</b>			

(2016年度の助成期間は、2017年1月1日～12月31日です)

**2016 年度助成対象プロジェクト一覧**  
**ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援**  
**－継続助成－**

	活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
(助成 2 年目)							
1	○		障害やひきこもりによって社会から孤立した中堅世代のためのプロジェクト	特定非営利活動法人 ワークハウス雲	渡邊知子	岩手	154
2	○		セクシュアル・マイノリティの中堅世代困難層に向けた HIV 検査同行とサポート	クライシスサポート センター nolb	濱中洋平	東京	240
3	○		中堅世代の介護離職予防プログラムの開発及び介護相談コンシエルの設置	特定非営利活動法人 HEART TO HEART	尾之内直美	愛知	200
4	○		視覚障害者の「化粧をしたい！」を応援するプロジェクト	日本ケアメイク協会	大石華法	大阪	100
5	○		心とからだに優しいハーブづくりによるマイチャレンジ推進事業	一般社団法人 新しい自立化支援塾	森本初代	徳島	150
(助成 3 年目)							
6	○		孤立した困窮者を連携・寄り添い型で支えるための支援組織のネットワークづくり	認定特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コモンズ	横田能洋	茨城	217
7	○		薬物依存症女性の子育て支援プログラム	特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス	須賀一郎	東京	239
8	○		地域自立生活支援コミュニティスペースの再生	ほっとスペース おり～ぶ	廣井朋映	兵庫	200
<b>助成総額 [8 件・合計]</b>							<b>1,500 万円</b>

(2016 年度の助成期間は、2017 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

## 新規助成の選考経過と助成の特徴

新規助成 選考委員長 稲沢 公一

### ■はじめに

昨年から、新規助成の選考委員長を務めて2年目となります。

今年は、まず、応募数が昨年より38件減って、4分の3になりました。とはいえ、狭き門であることには変わりありません。また、選考委員は1名増員となり、選考委員会では、よりさまざまな角度から評価を行い、意見交換をいたしました。

さらに、今年の特徴として、満額での申請が少なかったということがあげられます。プロジェクト内容を拝見しても、地道な印象を受けました。そのため、助成総額は変わっていませんが、集中的にというより、広く浅く助成することになりました。

### ■選考経過と結果

新規助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・応募期間： 6月6日（月）～6月17日（金）
- ・応募総数： 105件（参考：昨年度143件）
- ・予備選考委員会： 7月11日（月）
- ・本審査対象： 52件
- ・書類選考： 7月21日（木）～8月8日（月）
- ・選考委員会： 8月11日（木）
- ・選考結果： 助成候補8件、補欠2件
- ・現地ヒアリング（事務局）： 8月下旬～9月中旬
- ・ヒアリング結果報告・委員長決裁： 10月7日（金）
- ・助成決定： 助成件数7件、助成総額1,260万円

※上記プロセスと並行して、ファイザー社内担当部署による、医薬品業界・社会規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施しました。

### ■助成の特徴

以下では、応募書類からではなく、事務局による現地ヒアリングの過程で、明らかになってきた特徴をいくつかあげさせていただきます。

#### ・「社会状況の変化」

今年の助成対象となった団体は、いずれも5年以上の活動年数を有し、中には20年を超える団体もあります。選考委員会では、逆に、「どうして今頃になって」という意見もありましたが、ヒアリングを通じて、たとえば「生活困窮者を中心とした健康改善及び自律支援事業」（仙台夜まわりグループ）のように、東日本大震災以後に生活困窮者の年齢層が10歳若返って、支援課題の質が変わってきているといった事情が明らかになったケースもありました。

また、「中堅世代の刑事被拘禁者向け医療相談事業」（監獄人権センター）では、医局システムが崩壊してしまったために、医局から刑務所に派遣されていた医師がいなくなり、そのために医



師が定着しなかったり、医療の質に問題が生じたりするという事象が起きていました。だからこそ、今になって刑務所における医療問題が大きな課題になっているとのことでした。

長い実績があるからこそ、社会状況の変化に応じて新たな活動を展開しなければならないというわけです。

#### ・「出会い」

特定の個人や団体だけではできることが限られてしまいますが、出会いをきっかけにネットワークを立ち上げることによって、大きな力を発揮することがあります。

今回でいえば、まず、「沖縄夢コーヒープロジェクト」(ウヤギー沖縄)では、農作業を通じてひきこもり当事者の社会参加、就労支援を目指してきたものの、コーヒー栽培に協力してくれる農家探しに苦労していました。しかしながら、すでにコーヒー農家を支援されている方との出会いを通じて、協力農家と連携する見通しがつき、プロジェクトを立ち上げることができました。

また、「埼玉県西部地区における未就学児期の難病児子育て応援プロジェクト」(はなみずき会)も、難病児を抱える親御さんと保育所を運営する社会福祉法人との出会いによって立ち上げられたプロジェクトになっています。

さらに、「発達障がい者などの人達の笑いの効用事業」(楽しいモグラクラブ)では、ひきこもりや発達障害のある人たちの居場所づくりをしている方が笑劇一座に参加し、放送作家の方と出会うことを通して、今回のプロジェクトにつながっています。

そして、「障害者をつくる『山元の魅力』を発信するプロジェクト」(ポラリス)は、軽度の障がいや生きづらさ等を抱えているグレーゾーンの当事者を対象にアート活動を展開されています。そして、専門性の高いエイブル・アート・ジャパンとの連携によって、アート作品の質を高く保っています。

あるいは、「地域の女性とシングルマザーによる『活躍』と『自立』の場づくり事業」(桑名女性ネットワーク)においては、ネットワークの拠点づくりそのものがプロジェクトになっています。各地に類似のネットワークが存在しているのではないかという意見もありましたが、メンバー数が多くて幅広いことがうかがえたので、その潜在的な可能性に期待することといたしました。

いずれの場合にも、思いがけない出会いやその上での意気投合といった数々のドラマがあったものと推察されます。何かをやりたいと念じていると、出会いの方が向こうから訪れてくれるのかもしれない。あるいは、ただの通りすがりを出会いとして受け止める構えができていないのかもしれない。数多の素敵な出会いから生まれたプロジェクトに期待したいと思います。

## 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

プロジェクト名： 発達障がい者などの人達の笑いの効用事業  
助成種別： 市民活動  
団体名： 特定非営利活動法人 楽しいモグラクラブ  
代表者名： 平田 眞弓  
主な活動地域： 北海道

本団体はひきこもりや発達障がいの支援を行う団体で、本プロジェクトでは「笑い」を通じて、当事者のモチベーションアップにつながる取り組みを展開する。

具体的には、プロの放送作家の指導のもと、喜劇の脚本づくりに挑戦する。チームワークや思いやりをテーマにした喜劇制作に携わり、楽しみながら、自分の個性をうまく引き出し、ありのままの自分を受け入れて、劇中に反映させる。

本団体の当事者だけでなく、生きづらいと感じるグレーゾーンの方々も巻き込んだプロジェクトを目指している点が評価された。

ひきこもりや発達障がい者の中高齢化に伴い、その親も高齢化し、当事者親子が社会から孤立することが大きな課題の一つとなっている。喜劇の脚本教室と上演を通じて、当事者と地域が交流し、プラスのスパイラル効果が生まれるよう期待したい。

プロジェクト名： 障害者をつくる「山元の魅力」を発信するプロジェクト  
助成種別： 市民活動  
団体名： 特定非営利活動法人 ポラリス  
代表者名： 田口 ひろみ  
主な活動地域： 宮城県

本団体は、障がいを抱えた方、生きづらさを抱えたグレーゾーンの当事者の方々が、地域社会で働き、地域について学び、生きがいを見つけ、社会参加していくことを支援している。

昨年、団体施設の近くで建設が始まった東日本大震災被災者の集団移転先から遺跡が発掘されたことで、施設の利用者と地域の人たちが一緒に山元町の歴史を学ぶ機会を得た。そこから「山元の歴史・民俗・文化・自然を学ぶカフェ」の開催と「山元ストーリーブックの制作」を計画している。

施設の利用者たちは、日ごろアート活動を楽しんでおり、必要に応じて、プロのアーティストとの協業も行っている。今回のストーリーブックも歴史研究者やアートの専門家と共に制作し、完成後は、公共施設への配布や教育現場での活用を検討している。

本プロジェクトを通じて、当事者と地域の人が共に地元の文化と歴史に親しみ、新しい街の魅力を再発見し、震災からの復興にもつながることを期待したい。

**プロジェクト名：** 生活困窮者を中心とした健康改善及び自律支援事業  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ  
**代表者名：** 今井 誠二  
**主な活動地域：** 宮城県

本団体は、仙台市内のホームレス、生活困窮者（生活保護受給者含む）を支援して17年目になる。東日本大震災後、ホームレスの若年化が顕著となり、支援対象者は30代から50代の中堅世代が圧倒的に増えている。

本プロジェクトでは、特に健康管理の面で、①独居中堅世代への家庭訪問による健康調査、②中堅世代の健康状態の把握（アンケート）、③健康への意識を喚起するセミナー、講演会を開催し、居宅確保後の自律支援へと結びつける。

ホームレスや生活困窮者への支援は、これまで就労支援が主流だったが、近年は健康管理支援も重要視されるようになってきている。民間の支援活動を通して健康診断（相談）、居宅支援、中間的就労、就労支援という流れが生まれ、健康支援の課題が明らかになることで、他地域や他団体のモデルになっていく可能性がある。本プロジェクトは、震災から5年半がたち、目に見えにくい影響が出始めているという問題提起としても受け止めたい。

**プロジェクト名：** 埼玉県西部地区における未就学時期の難病児子育て応援プロジェクト  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 社会福祉法人 はなみずき会  
**代表者名：** 都築 公子  
**主な活動地域：** 埼玉県

本団体は、埼玉県飯能市で子育てや保育、障がい者の就労支援に取り組んでいる社会福祉法人である。

本プロジェクトでは、同地域で難病児とその親の支援活動に取り組む「ニモカクラブ」と協同し、①難病児とその家族のための居場所づくり、②親戚や地域の人々の難病に対する理解を深める活動、③難病児を育てる親の就労支援を目的とする実験的取り組み、④親へのアンケート調査を行う。

特に公的支援が希薄な未就学時期に重点を置いている点で社会的な意義が認められる。また、家族の居場所づくりや就労支援によって身体・精神・経済的負担の軽減を図ることは、中堅世代のヘルスケアの取り組みとして重要と考えられる。

先駆的な取り組みであり、将来的には行政への働き掛けを通して、制度事業への移行を見据えている。親のニーズを丁寧に聴き取りながら、着実にプロジェクトが展開していくよう期待したい。

**プロジェクト名：** 中堅世代の刑事被拘禁者向け医療相談事業  
**助成種別：** 市民活動・市民研究  
**団体名：** 特定非営利活動法人 監獄人権センター  
**代表者名：** 海渡 雄一  
**主な活動地域：** 東京都

被拘禁者の7割以上を中堅世代が占めている現状があり、薬物依存、アルコール依存、障害等の問題を抱える被拘禁者も多く、刑事施設で医療が十分に受けられていない状況のまま出所してしまうと、健全な社会生活を送ることができず再犯に至る可能性も大きい。

本プロジェクトは被拘禁者から団体に寄せられた約2,500件の医療相談の内容分析、出所者および弁護士へのヒアリングなどから情報を整理し、施設内で適切な医療措置を受けられるよう情報提供を行う。また、医療措置の改善について、国に対しての政策提言も視野に入れている。

被拘禁者のヘルスケアの確保は、人権の観点からも重要な社会的課題として考えられる。本プロジェクトは、実施メンバーが心理・医療・法制度の専門的知見をもち、当事者の実態を示すデータに基づく分析を実施するという点から、市民研究の成果として刑事施設での医療措置の現状と課題が明らかになるよう期待したい。

**プロジェクト名：** 地域の女性とシングルマザーによる「活躍」と「自立」の場づくり事業  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 桑名女性ネットワーク  
**代表者名：** 水谷 美保  
**主な活動地域：** 三重県

本プロジェクトは、地域のシングルマザーや、子育てや介護などで安定的な就労が困難な女性たちの地域の居場所をつくり、就労と自立を支援するものである。団体の事務所を改装し、地域のこども食堂を居場所として活用する。

「母子家庭=貧困→支援対象」といった一方的な視点に陥らず、お互いが講師や受講生、仲間、サポーターとなって、自分たちで自立に向けた力を付けていく方向性を持っており、就労準備やコミュニティづくりとして期待できる。

全国に類似の取り組みが見られ、今日的な流れの証左だろう。本団体は、桑名を中心に活躍する女性たち200名が参加するネットワーク団体である。この多様なメンバーがプロジェクトに関わり、今後少なくなる人口の中で、地域でどのような豊かな生き方が可能かを見い出せるよう期待したい。

プロジェクト名：	沖縄夢コーヒープロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 ウヤギー沖縄
代表者名：	近藤 正隆
主な活動地域：	沖縄県

70万人ともいわれるひきこもり当事者が高年齢化し、40代50代の相談も増加傾向にある。また、ひきこもり状態が長期化する傾向にあり、国の施策により相談支援の窓口は充実しつつあるものの、就労・自立に向けての具体的なプログラムが不足する状況が続いている。

本プロジェクトは日本の中でも特に失業率・ニート率が高いという課題をもつ沖縄において、ひきこもり当事者の自立支援を目指すプログラムである。耕作放棄地を活用し、農家と連携しながら当地の隠れた名産品である沖縄コーヒーを栽培し、ひきこもり当事者の就労の場として事業化しようとしている。

農家の方々とひきこもり当事者の相互理解を、セミナーや体験を重ねることにより丁寧に進めることを目指しており、また生産品であるコーヒー豆の販路として県内外の取引先を確保するなど、着実な事業展開が図られている。

ひきこもり当事者支援と地域活性化・産業振興との相乗的な効果を期待したい。

## 継続助成の選考経過と助成の特徴

継続助成 選考委員長 稲 沢 公 一

### ■はじめに

昨年度より新規助成の選考委員長をお引き受けいたしました。今年度より継続助成の選考委員長も兼務させていただくことになりました。

新規助成の選考と何ら変わらないものと思っておりましたが、全く異なる選考であることを思い知らされました。違いにつきましては、以下で雑感として述べさせていただきますが、まずは、選考過程の実際は、次の通りです。

### ■選考経過と結果

継続助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

【応募受付】7月25日（月）～8月5日（金）

応募総数 15 件（継続2年目 10 件、継続3年目 5 件）

↓

【選考委員会】9月12日（月）（応募7団体によるプレゼンテーション実施）

9月22日（木）（応募8団体によるプレゼンテーション実施）

↓

【選考結果】助成件数 8 件（継続2年目 5 件、継続3年目 3 件）、助成総額 1,500 万円

※上記プロセスと並行して、ファイザー社内担当部署による、医薬品業界・社会規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施しました。

### ■助成の特徴

#### ①レベルの高さ

継続助成の対象となるプロジェクトは、当然のことながら、新規助成の選考という「狭き門」をすでに通過してきた先駆的かつ独創的な内容を含んでいます。したがって、活動の意図や目指す目的などについて、書類選考の段階においては、いずれも遜色がありません。このように、すでに採択されたというレベルの高さが新規助成の選考とは全く異なる前提になっているということをまずは思い知らされました。

#### ②活動実績

継続助成では、新規助成で採択されたレベルにあるということだけでなく、1年もしくは2年近くにおよぶプロジェクトがすでに展開されているということもまた共通する前提となります。そのため、いかにプロジェクト内容が先駆的で目標が高く設定されていたとしても、実際に何ほどの程度まで行われたのかといった実績が書類上でも示されなければなりません。

助成金を使った実績がダイレクトに伝わってきたプログラムは、高い評価を得ることができました。この点で、今回最も際立っていたのは、「HEART TO HEART」が作成した『マンガで学ぼう認知症』シリーズでした。コンパクトでありながらもあまりにも内容が充実しているため、選考委員一同感嘆の声をあげたほどでした。

とはいえ、突然の状況変化などにより、プロジェクトが停滞せざるを得ない団体も垣間見えました。そういう場合は、たとえ助成を行っても、それを十分に活用するためのマンパワーが確保されていないと思われたため、一旦助成を停止せざるを得ないと判断しました。ぜひ体制を立て直したうえであらためて応募していただければと思います。

### ③さらなる新規性

継続助成ではありますが、ただこれまでのプロジェクトを継続していこうとするだけでなく、さらに新しいことを行っていきたいという意欲が伝わってくるプロジェクトは有望です。その点で、「クライシスサポートセンターno1b」は、スタッフが増えただけでなく、シェルターも確保でき、より広範なプロジェクトが強く期待できるプログラムとの高い評価を得ました。

とはいえ、多くの団体において、ギリギリ手一杯の状況で何とかプロジェクトが行われているという事情もわからないわけではありません。そこで、たとえ特に目新しい企画が示されなかったとしても、後継者の育成や協力者の拡充などを目指していることが伝わってくる場合は、応援したいと思いました。

### ④必要不可欠さ

結局、これに尽きるともいえるのですが、この「不可欠さ」には二つの意味が含まれています。

一つは、もちろん、そのプロジェクト自体が不可欠であって、非常に独創的であるとともに、社会的な意義が高いと判断されることです。ただし、この意味での不可欠さは、新規助成の選考を通過した段階でほぼクリアされており、どの団体のプロジェクトにも当てはまることであるといえます。

そして、もう一つは、ファイザープログラムそのものがその団体にとって必要不可欠であるかどうかということです。全体の予算規模が小さく、他の助成金も期待できず、ましてや公的な制度に乗ることもなく、ここで手を引いたらプロジェクトが立ち行かなくなると思われるような案件に対しては、出来る限りの応援をしていきたいと考えました。

### ⑤プレゼンテーション

各団体によるプレゼンも新規助成の選考には見られないもので、個人的には初めての経験でした。こうしたプレゼンに慣れていらっしゃる団体もあれば、緊張がヒシヒシと伝わってくる団体もありました。基本的には、応募書類で上にあげた②～④の要点が整理されていれば、それほど突っ込んだ質問をする必要もないのですが、書類で疑問に思われた点については、やはり確認させていただくことになります。それによって全面的に評価が変わったといったことはありませんでしたが、若干の変更が見られたのは確かです。

ただ、皆さんが懸命にプレゼンされている姿を目の当たりにした後で行われる選考委員会は、書類だけに基づく新規助成の選考とは、全く異なるものであることも実感しました。「あの団体」を不採択にし、「あの団体」の応募金額を減額することは、大学のA0入試で直に面接した受験生を不合格にするのにも似た、何とも心痛む経験であったことを申し添えます。

採択された団体には、今後ますますのご活躍を心より祈念しております。

## 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

### 【助成 2 年目】

プロジェクト名：	障害やひきこもりによって社会から孤立した中堅世代のためのプロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 ワークハウス雲
代表者名：	渡邊 知子
主な活動地域：	岩手県

自信を無くし、周囲の人が信じられず、地域社会から孤立せざるを得なかった人たち。一方、地域の高齢化に伴って一人暮らしのお年寄り、老夫婦だけの家庭などの増加…。お互いが必要とされる存在としてつながれないか。障がいを抱える人やひきこもりにある人の就労支援に取り組む本団体は、この問いかけから町の空き家を借りて宅配弁当屋を試みた。

助成 1 年目は宅配弁当事業の合間、草取り、農作物の収穫作業、包丁研ぎ等地域の高齢者を手伝う「猫の手サービス」(便利業)、アクリル製たわしなどの作成する「猫の手工房」に手を広げた。助成 2 年目の今回はさらに知名度を上げることで、地域の高齢者から喜ばれ、地域の役に立つ喜びを得るコミュニティづくりの強化を目指す。

地道で良心的な活動のあまり、財政面では事業が進展すればするほど持ち出しになる不安定な構造であり、持続性のある採算スキームへ見直す必要がある。また全ての活動業務を一手に担う代表理事の負担を軽減する後継者の育成も期待したい。

プロジェクト名：	セクシュアル・マイノリティの中堅世代困難層に向けた HIV 検査同行とサポート
助成種別：	市民活動
団体名：	クライシスサポートセンター nolb
代表者名：	濱中 洋平
主な活動地域：	東京都

HIV 性感染症の検査同行支援とその後のサポートを丁寧に行い、医療機関・心理・福祉専門職とも連携しながら生活全般への支援を展開している。エイズ発症と同時に感染が分かるという割合を下げるため、検査に行けない背景要因を洗い出し、伴走型の受診同行支援を展開している点は、当事者の状況をよく理解した丁寧な取り組みとして評価することができる。

助成 1 年目の取り組みでは、同行相談員を養成する研修を行いスタッフの拡大を図っており、またウェブサイトの刷新など、プロジェクトの周知拡大に努めている。さらに当事者が安心できる場所としてシェルターも開設し、検査前から HIV 感染の確定、その後の生活全般にわたる支援が着実に展開されている。

今後は、スタッフの拡充、連携機関の拡大を念頭におき、より組織基盤の強化を図ると同時に、相談支援の過程で蓄積したファクトを、感染予防および、HIV 陽性者への支援に向けた提言としてまとめていただくことを期待したい。



**プロジェクト名：** 中堅世代の介護離職予防プログラムの開発及び介護相談コンシェル設置  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 特定非営利活動法人 HEART TO HEART  
**代表者名：** 尾之内 直美  
**主な活動地域：** 愛知県

本団体は、認知症の人とその家族への支援活動に取り組んできたが、高齢者人口の増加とともに仕事と介護の両立に悩む中堅世代からの相談が増えているため、企業内での「介護離職予防プログラム」を開始した。

助成1年目は、企業側・就労側ともに介護に関わる知識や情報の不足から離職に至らぬよう、企業での研修実施や、電話での相談コンシェルを設置を図った。

助成2年目となる今回は、引き続き企業内研修や介護相談コンセルの運営によって離職防止体制の充実を図りつつ、併せて介護者にとって心強い社会資源である包括センターについての情報提供等、仕事と介護の両立を図るための対策・支援内容についてわかりやすく伝える冊子「マンガで学ぼう」も作成する。

介護と仕事のケアワークバランスに関わるこうした企業支援で、認知症の人とその家族を支えていくシステムは強化されていくはずである。安心して暮らせる地域づくりがさらに進むことを期待したい。

**プロジェクト名：** 視覚障害者の「化粧をしたい！」を応援するプロジェクト  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 日本ケアメイク協会  
**代表者名：** 大石 華法  
**主な活動地域：** 大阪府

先天性や途中で視覚に障がいを持った方は、化粧はできないと諦めていたり、メイクができなくなったことで、外出を控えるようになっていたりしていた。本団体が考案した鏡を見ずにフルメイクアップができる「ブラインドメイク」の手法により、他人に頼らず自分だけで化粧ができるようになったことで、自己肯定感が高まり、社会参加の機会が増えた当事者も多くいる。

助成1年目は、障がいや年齢ごとにメイクアップの手順を撮影した動画を作成するなど、当事者目線のきめ細かな工夫をしており、本団体のホームページの情報をさらに充実させることで、実際にメイク講習に参加できないより多くの当事者が「ブラインドメイク」の恩恵を受けることが可能になる。

他に類を見ないユニークな取り組みで、助成1年目の活動だけでも社会的な反響も大きいことがうかがえる。団体の特徴である当事者性を重視した姿勢を大切に、組織基盤を強化しながら、助成2年目も着実に団体の活動が展開されることを期待したい。

プロジェクト名：	心とからだに優しいハーブづくりによるマイチャレンジ推進事業
助成種別：	市民活動
団体名：	一般社団法人 新しい自立化支援塾
代表者名：	森本 初代
主な活動地域：	徳島県

本団体はホームレスや生活困窮者の健康回復と社会的自立に向けて新たな支援策を開発し、地域活性化に寄与する事業を行っている。

助成1年目は中堅世代の生活困窮者等の就労支援として、ハーブづくりによる中間的就労訓練の場を提供し、土と自然に触れながら働く喜びを体感することで健康回復と社会的自立を目指した。また地域にコミュニティカフェを開放して要支援者の早期発見や地域の交流を図った。

助成2年目の今回は、高品質ハーブの生産等に取り組むとともに、当事者へのアンケート調査により多数のうつ状態やヘビースモーカーの人の存在が判明したことから、同カフェでのハーブ食育講座等で生活改善を推進することで、徳島らしい中間的就労支援のヘルスケアモデルとして提案していく。

一時的に健康が回復したものの、再び悪化するケースも少なくない。今後は地域に密着したプロジェクトとして、多様な世代との触れ合いの中から当事者の就労意欲を高めることはもとより、当事者を支えるコミュニティとして住民の理解が深められていくことも期待したい。

### 【助成3年目】

プロジェクト名：	孤立した困窮者を連携・寄り添い型で支えるための支援組織のネットワークづくり
助成種別：	市民活動
団体名：	認定特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・commons
代表者名：	横田 能洋
主な活動地域：	茨城県

生活困窮者が相談窓口に出向いてもなかなか出口としての就労先に結び付きにくい現状があり、中間就労支援の重要性の認識はまだ行政にも浸透していない。そうした中、民間の団体が中間就労の場の開拓、寄り添い支援を地域に根差して展開することにより、着実に成果をあげている。

過去2年間の助成の成果としては、ジョブトレーナーの育成研修が進められ、中間就労先への同行支援が可能な体制構築が進められている。また当事者の訓練先としても、地域の企業と連携し、中間就労の場を地域の中で着実に開拓を進めている。

生活困窮者自立支援制度は、行政だけの取り組みでは硬直し成果がなかなか出ない現状があるため、民間からのボトムアップの提案や先駆的な活動展開が重要となる。本プロジェクトにより、生活困窮者自立支援事業の課題を現場から提起し、就労支援の成果が見える化し、行政と連携しながら、中間的就労支援の先駆的モデルとなることを期待したい。

**プロジェクト名：** 薬物依存症女性の子育て支援プログラム  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** 特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス  
**代表者名：** 須賀 一郎  
**主な活動地域：** 東京都

本団体は、女性の薬物依存症者の回復と自立の支援を行う日本で最初の民間施設として活動を続けてきている。薬物依存のため離れて暮らす母子の再統合には多くの悲劇が繰り返されている現実があるため、助成1年目と2年目においては、アーティストや発達障害の専門家とともに、母子の関係修復のためのワークショップやセミナーを実施した。さらにスクールソーシャルワーカーの派遣や遠距離施設への面会補助を行って母子を支援に取り組んできた。

助成3年目となる今回は、それらの支援プログラムに加え、薬物依存症受刑者の子育てを支援する専門家たちのセミナー開催などによって、刑務所に収監された母と残された子どもという最も困難な状況の母子支援に取り組む。

これらの取り組みは行政の枠組みを超えた横断的な支援が必要である。セミナーで発表された専門家たちによる実態報告・支援への提言等の内容は報告書にまとめられるが、その意義は大きく、フロントランナーとして存在を発揮して欲しい。

**プロジェクト名：** 地域自立生活支援コミュニティスペースの再生  
**助成種別：** 市民活動  
**団体名：** ほっとスペース おり〜ぶ  
**代表者名：** 廣井 朋映  
**主な活動地域：** 兵庫県

本団体は、こころの病等を理由に、地域社会に馴染めない方々を対象とした居場所づくりと交流の機会づくりを行っている。助成1年目と2年目の取り組みでは、古民家をセルフビルドでリフォームしながら、地域のつながりが広がる様子が生き生きと伝わってきた。

本プロジェクトは当初からの計画に沿って着実に進んでおり、助成3年目はカフェスペースを当事者の働く場としても機能させていく。当事者と家族が中心でありながら、地域の交流や多世代による協働作業が生まれ、それが心の病を持つ人のみならず、地域の人々の居心地のよさにつながる好循環になっていると思われる。

市のサテライト拠点プロジェクトの候補にも挙がるなど、これまでのプロジェクトの実績が地域や行政からも高く評価されている様子がうかがえる。ニュータウンの高齢化という問題を抱える地域は他にも多数あり、地域の課題解決の手法、取り組みとしてロールモデルになることも期待される。